

[5~6月 藤原歌劇団公演]

ヴェルディ「リゴレット」

バリトンを愛したヴェルディの名作
 満を持したキャストで20年ぶりの上演にご期待ください!



トゥールーズ・キャピトル歌劇場公演より



公演監督 岡山廣幸

藤原歌劇団久々の新制作「ラ・ボエーム」は好評裡に幕を閉じることができました。心より御礼申し上げます。今回の公演はNHKが収録し、4月1日に放映されることになっているのであの感動をもう一度味わっていただけます。さて次回公演はヴェルディの名作「リゴレット」、当団では20年ぶりの上演になります。

このオペラの原作は、かの文豪ヴィクトル・ユゴー(Victor Marie Hugo)の「逸楽の王」という5幕から成る戯曲です。「リゴレット」が初演されたのは1851年ヴェネツィアのフェニーチェ劇場ですが、当時ヴェネツィアはオーストリアの支配下にあり、国王を揶揄するような内容の作品を無条件で上演できる状況ではありませんでした。ヴェルディと台本作家のピアヴェは粘り強く権力の検閲に対応し、最終的には舞台をフランスからイタリアのマントヴァに変えて上演許可を取ることができました。

ところで、ヴェルディという作曲家はバリトンを愛した作曲家という表現もできます。ナブッコ、マクベス、シモン、ファルスタッフ等々、リゴレット以外にもタイトル・ロールにバリトンを使っています。これらの役を歌うバリトンの声は重厚な、深い音色を求められます。ヴォーチェ・ヴェルディアーナという言葉がありますが、これはヴェルディのオペラを歌うのにふさわしい声という意味です。

今回のタイトル・ロールを歌うアルベルト・ガザーレと堀内康雄は共にこのヴォーチェ・ヴェルディアーナを持っている貴重な歌手と言えます。マントヴァ公爵のエマヌエーレ・ダグアンと平尾憲嗣は、これからどこまで伸びるか楽しみな若手テノールで、容姿も女性ファンを魅了すること間違いありません。ジルダを歌う高橋薫子と佐藤美枝子の2人は「ランスへの旅」「ラ・ボエーム」に続く出演となり、可憐なジルダを演じてくれることと思います。

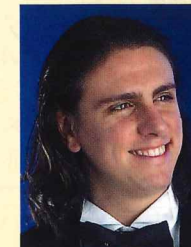
指揮のリカルド・フリッツァとは2年前にペーザロで会いました。ロッシーニのオペラ「シャブランのマテルデ」という難曲を実に軽快に振っていて実力のある指揮者だなあ、という印象を持ちました。終演後話をしましたがとても感じの良い若者でした。その時いつか藤原のオペラを振ってもらおうと思ったことが実現でき、とても楽しみです。舞台は世界的名演出家ニコラ・ジョエル/トゥールーズ・キャピトル歌劇場プロダクションです。ぜひ皆様のご来場をお待ちしています。



アルベルト・ガザーレ (リゴレット)



堀内康雄 (リゴレット)



エマヌエーレ・ダグアン (マントヴァ公爵)



平尾憲嗣 (マントヴァ公爵)



高橋薫子 (ジルダ)



佐藤美枝子 (ジルダ)

実力派、しかも“いい男”が揃った大注目の「リゴレット」

石戸谷結子 (音楽評論家)

「リゴレット」はイタリア・オペラとしてはちょっと異色作だ。愛の恋のといったテーマよりも、虐げられ、世の中への復讐を抱え込んだ不幸な初老の男が前面に出る暗い作品だからだ。にも関わらず、これだけの人気を誇るのには、リゴレットの奥底に潜む人間ならではの嫉妬や苦悩や哀しみや、娘を想う深い愛に、誰もが共感できるからではないだろうか。そして音楽。リゴレットの長いモノローグをはじめ、父娘の情愛あふれる二重唱や美しいジルダのアリアや公爵の軽やかなアリアに四重唱など、聴きどころ満載の作品だ。

その主役リゴレットだが、かつらを付けて腰をかかめ、世の不幸を一身に背負う悲惨な老人役なのに、最近では美男のバリトンがみなこの役を歌いたがる。昨年1月、スカラ座の「リゴレット」をリハーサル中のアルベルト・ガザーレに会ったのだが、彼もまた「リゴレットの役が一番好き」と言っていた。「バリトンじゃなくても、誰もがきっと歌いたいと思う究極の役です」。苦悩し、思索するヴェルディが、自分の内面を吐露したのが、この作品だと彼は言う。

今回の公演では、正統派ヴェルディ・バリトンとしてイタリアが国を挙げて期待をかけ

る、いま旬のガザーレがリゴレットを歌うのが聴きものだ。ちょっとシャイで繊細なところもあるガザーレだが、「キャリアを積んだので、いまは悪い奴もできるようになったと思いますよ」と自信のほどを語っていた。彼の声も表現も、決して大向こうを狙う派手なものではないが、じっくりと美声と深い表現を味わわせてくれる本格派のバリトンだ。

もう一人、注目のイタリア男はマントヴァ公爵を歌うエマヌエーレ・ダグアンノである。まだ20代後半という若さだが、すでに世界各地で活躍中。そういえば、昨年1月トリノの「マノン・レスコー」でエドモンドを歌ったのを聴いている。ジャン・レノが演出した夢のように美しい舞台だった。金髪碧眼のハンサム男だからひととき目立ったのだが、今回のマントヴァ公爵にはびったり。ドン・ラミロやネモリーノやアルマヴィーヴァが得意な、明るく軽やかなリリック・テナーである

じつはもう一方のキャストも、見逃せない。リゴレットを歌う堀内康雄は、誰もが認めるヴェルディ・バリトンの第一人者。もちろん、誰もが認めるいい男である。リゴレットは、これまでローマ歌劇場やフェニーチェ歌劇場など海外で歌って好評を博してきたが、なんと

日本では今回が初めてとなる。声が熟し、表現が深くなってきたいま、まさに本領発揮の舞台になるのではないだろうか。

マントヴァ公爵を歌う平尾憲嗣は、2005年に藤原歌劇団にデビューしたばかりの、期待の新人テノール。これまでいくつもの公演で主役テノールのアンダースタディを務めて実力を磨き、今回の公演に抜擢された。若々しい現代的なハンサム男だけに、どんなマントヴァ公爵を演じてくれるのか、期待が募る。

というわけで、どちらのキャストもリゴレットとマントヴァは「若くいいい男」が揃って、聴きごたえはもちろんだが、見ごたえある舞台になりそうだ。ジルダは、藤原歌劇団が誇る華やかなプリマドンナの競演となる。高橋薫子も佐藤美枝子も、どちらも可憐な容姿と華麗な声がジルダのイメージそのもの。こちらもやっぱり、両方聴き逃さない。

そして指揮のリッカルド・フリッツァ。ペーザロヤスポレート音楽祭、最近ではメトロポリタン歌劇場でも活躍する若手実力派だ。ドラマチックな音楽づくりが好評だから、音楽面でも大いに期待できる大注目の公演がこの「リゴレット」だ。

藤原歌劇団公演 (公演監督/岡山廣幸)

ヴェルディ 作曲

リゴレット

オペラ3幕(字幕付き原語上演)

指揮/リッカルド・フリッツァ

演出/ニコラ・ジョエル

リゴレット	アルベルト・ガザーレ (5/25、27、6/3)	
	堀内康雄 (5/26)	
マントヴァ公爵	エマヌエーレ・ダグアンノ (5/25、27、6/3)	
	平尾憲嗣 (5/26)	
ジルダ	高橋薫子 (5/25、27)	
	佐藤美枝子 (5/26、6/3)	
	5/25、27	5/26、6/3
スバラフチーレ	彭 康亮(ボン・カンリアン)	南 完(ナム・ワン)
マッダレーナ	森山京子	鳥木弥生
モンテローネ伯爵	東原貞彦	党 主税
ジョヴァンナ	向野由美子	吉田郁恵
マルッコ	柴山昌宣	柿沼伸美
ボルサ	小山陽二郎	石川誠二
チェブラーノ伯爵	田島達也	井上白葉
チェブラーノ伯爵夫人	日向由子	立川かずさ
小姓	但馬由香	山崎知子
門番	青柳 明	青柳 明

合唱: 藤原歌劇団合唱部

管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団

(あらすじ)

16世紀、北イタリアのマントヴァ。好色家の領主マントヴァ公爵に仕えるみにくい道化師リゴレットはある日、公爵に娘を慰みものにされた老伯爵をあざけり、呪いの言葉をかける。実はリゴレットにも愛する一人娘ジルダがいた。ところが彼女を見初めた公爵の熱烈な求愛にジルダは夢になってしまう。そのジルダが、日頃からリゴレットの悪辣な態度に感みを抱く廷臣たちに誘拐される。宮廷に連れてこられたジルダを、公爵はさっそく手籠めに。復讐の怒りに燃えたりリゴレットは殺し屋スバラフチーレに公爵殺害を依頼する。しかし、公爵への思いが冷めないジルダは、身代わりになって自分が殺されようと決意。スバラフチーレから死体の入った袋を受け取ったリゴレットがその中に見たのは、虫の息のジルダだった…。

2007年

5月25日(金)18:30/26日(土)・27日(日)15:00

東京文化会館

(JR上野駅公園口直前)

特別席 ¥18,000 A ¥14,000 B ¥9,000 C ¥7,000 D ¥5,000 E ¥3,000

* 日本オペラ振興会チケットセンターでは東京公演のE券ならびに神奈川公演の取り扱いはありません。

第14回神奈川国際芸術フェスティバル

6月3日(日)15:00

神奈川県民ホール

(みなとみらい線日本大通り駅下車3番出口より徒歩6分、元町・中華街駅下車1番出口より徒歩12分、JR根岸線関内駅・石川町駅下車徒歩15分)

特別席 ¥16,000 A ¥12,000 B ¥9,000 C ¥7,000 D ¥5,000 E ¥3,000

学生 ¥2,000 A席ペア ¥21,600

「リゴレット」&「6/9ヴェルディ・ガラコンサート」セット(A席) ¥16,200

お問い合わせ: 県民ホールチケットセンター TEL045-662-8866



指揮
リッカルド・フリッツァ
Riccardo Frizza

1971年イタリアのブレッシェ生まれ。98年チェコの南ボヘミア州立フィル国際コンクール優勝。94年～2000年ブレッシェ交響楽団常任指揮者。ドニゼッティ「劇場の都合不都合」でオペラ・デビューを果たし、その後、

ペーザロやスポレート、マルティーナ・フランカなどイタリア国内の音楽祭や歌劇場はもとより、欧米各地の歌劇場で客演指揮者として活躍し、ヴェルディ、ロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティ、モーツァルトなど数多くのオペラを指揮。また、コンサートの分野でも活躍している。05年新国立劇場で「マクベス」を指揮。昨秋はジェノヴァで「魔笛」、本年は3月から4月にワシントン・オペラで「連隊の娘」など各地で活躍し、気鋭の指揮者として注目されている。藤原歌劇団初登場。

アルベルト・ガザーレ (バリトン) Alberto Gazale
リゴレット (5/25, 27, 6/3)

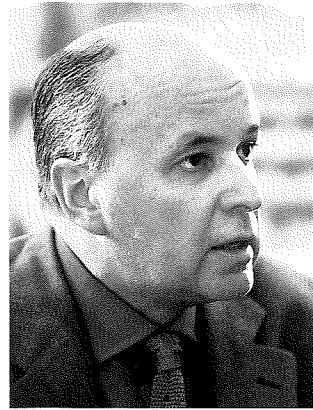
イタリア・サルデーニャ生まれ。バルマとブッセートのヴェルディ・アカデミーで学び、カルロ・ベルゴンツィ氏のもとでヴェルディのレパートリーを習得する。1997年バルマ王立劇場での「ラ・トラヴィアータ」のジェルモンでオペラ・デビュー以来、わずか3年の間に次々とヴェルディ・オペラを歌い、久しぶりに登場したイタリア出身の正統派バリトンの逸材として注目された。スカラ座はじめイタリア国内はもちろん、世界の主要劇場で活躍を続けている。2000年スカラ座日本公演「リゴレット」で好評を得、翌01年「マクベス」で藤原歌劇団に初登場、絶賛を博した。その後も、スカラ座「マクベス」、ボローニャ歌劇場「イル・トロヴァトーレ」などで来日し、日本での人気も高い。藤原歌劇団には2度目の登場。

エマヌエーレ・ダグアノ (テノール) Emanuele D'aguanno
マントヴァ公爵 (5/25, 27, 6/3)

1978年ローマ生まれ。ミラノのカルーゾ・コンクールなどで頭角をあらわし、演奏活動をスタート。現在、W.マッテウツィとV.ベッコの下で研鑽を積んでいる。イタリア国内の歌劇場に出演のほか、欧州、南米各地でも活動している。「3つのオレンジの恋」のトルッファルディーノ、トリノとカリアリで「マノン・レスコー」のエドモンド、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場で「4人の頑固者」などに出演し、直近ではピアチェンツァ市立劇場で「コジ・ファン・トゥッテ」のフェランド、クラゲンフルト市立劇場で「愛の妙薬」のネモリーノ、本年2月フェニーチェ劇場でヴォルフ・フェッラーリ作曲「賢い未亡人」に出演。今回が初来日となる若手テノールで、容姿に恵まれ、今後の活躍が期待される。

高橋薫子 (ソプラノ) Nobuko Takahashi
ジルダ (5/25, 27)

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。文化庁オペラ研修所第7期修了。1990年、イタリア声楽コンクールでシエナ大賞、モーツァルト没後200年記念国際モーツァルト声楽コンクール本選でアンナ・ゴットリーブ賞受賞。同年、藤原歌劇団公演「ドン・ジョヴァンニ」のツェルリーナで本格的デビューを飾って注目を集めた。91年から93年までミラノに留学。93年に藤原歌劇団「ルチア」のタイトルロールの代役で成功を収め、この役の代表的歌手に躍り出た。以降も藤原歌劇団「愛の妙薬」「イル・カンビエッロ」「ランスへの旅」「ラ・ボエーム」、新国立劇場「魔笛」「ドン・ジョヴァンニ」「セビリヤの理髪師」など多くのオペラに出演、澄みわたる美声と可憐な舞台姿で観客を魅了している。藤原歌劇団団員。



演出
ニコラ・ジョエル
Nicolas Joel

1953年パリ生まれ。1973年からストラブールのライン・オペラで演出家のアシスタントとして活動をはじめ、79年にライン・オペラとリヨン・オペラ座でのワーグナーの「ニーベルングの指環」で演出家としてデビュー。その後、ウイーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、

スカラ座、メトロポリタン歌劇場はじめ、欧米各地の一流歌劇場や音楽祭でフランス・オペラからワーグナーやヴェルディ、ロシア・オペラまで広範な作品で成功を収めている。90年からトゥールーズ・キャピトル歌劇場の芸術監督に就任。2003年藤原歌劇団&トゥールーズ・キャピトル歌劇場共同制作公演「ロメオとジュリエット」で初来日。その後もフランス国内外で多忙な演出活動を続けているベテラン演出家。2009年にはジュネール・モルティエの後任としてパリ・オペラ座の総裁に就任する予定。

堀内康雄 (バリトン) Yasuo Horiuchi
リゴレット (5/26)

慶応義塾大学法学部卒業。1991年ミラノ・ヴェルディ音楽院留学。第21回イタリア声楽コンクール・ミラノ大賞、第39回トゥールーズ、第5回ガヤレ、第5回ビルバオの各国際声楽コンクールで第1位をはじめ、国内外の数々のコンクールに入賞。94年、焼失前のヴェネツィア・フェニーチェ劇場での「ラ・ボエーム」でオペラ・デビュー。その後、ローマ歌劇場「マクベス」「リゴレット」、フェニーチェ劇場の「ラ・ボエーム」「リゴレット」、ブッセートでのヴェルディ没後100年記念「ナブッコ」など、イタリアを中心に欧州で活躍。国内では97年藤原歌劇団「ラ・トラヴィアータ」のジェルモン、「マクベス」で絶賛を博し、その後も、藤原歌劇団や新国立劇場などの数々のオペラでプリモ・バリトンとして活躍している。ミラノ在住。藤原歌劇団団員。

平尾憲嗣 (テノール) Noritsugu Hirao
マントヴァ公爵 (5/26)

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第21期生修了。大学院在籍中の2002年、Bunkamura/産経新聞モーストリー・クラシック主催によりオーチャードホールで開催された「第4回オペラティックバトル」で第1位。藤原歌劇団に05年「ラ・トラヴィアータ」のガストンでデビューして好評を博し、06年にも同役で出演。藤原歌劇団ではこれまで主役テノールのアンダースタディを務めて研鑽を積み、今回のマントヴァ公爵に抜擢された。3月に東京のオペラの森「タンホイザー」にハインリッヒ役で出演。若手テノールの逸材として注目され、今秋には藤原歌劇団「蝶々夫人」にピンカートンで出演予定。今後のさらなる活躍が期待される。藤原歌劇団団員。

佐藤美枝子 (ソプラノ) Mieko Sato
ジルダ (5/26, 6/3)

武蔵野音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了後、ローマに留学。1995年日本音楽コンクール声楽部門第1位。98年チャイコフスキー・コンクール声楽部門第1位で大きな話題となった。95年、ローマ市マンツォーニ劇場「リゴレット」にジルダ役で出演。99年新国立劇場に「カルメン」のミカエラでデビュー。藤原歌劇団には2000年1月、最も得意とする「ルチア」のタイトルロールでデビューを飾り絶賛を博した。その後も藤原歌劇団の「カプレーティ家とモンテッキ家」「イタリアのトルコ人」「ラ・トラヴィアータ」「ランスへの旅」「ラ・ボエーム」、新国立劇場「ドン・カルロ」「魔笛」などに出演し、オペラ・ファンの支持を集めている。コンサート、リサイタルでも活発に活動、CDも多数リリースしている。藤原歌劇団団員。

今回の「リゴレット」では、現代を代表する二人のヴェルディ・バリトンがタイトルロールを、一方の主演であるマントヴァ公爵を、近年めきめきと頭角を現している若手テノール二人が演じます。公演に向けて、それぞれの意気込みや思いをうかがいました。

interview

アルベルト・ガザーレ(リゴレット)

舞台のすべてが真実であるかのように

最近の舞台で

一番印象に残っている公演は？

間違いなく、2000年にニューヨークで師のカルロ・ベルゴンツィと共演した「オテロ」です。パヴァロッティ、ドミンゴ、カレーラスというオペラ界のビッグスターが最前列に並び、やや離れてレヴァイン、そして会場一杯の観衆と世界中の報道陣の目が、私の演じるヤーゴに向けられていたのですから。第2幕に入って、私は大テノールの声に急激な不調が起こっていることに気づきました。舞台に向かって吹き付ける空調の強い風のせいに間違いありません。第2幕フィナーレとなる壮大な二重唱に入って、互いに目と目が合った瞬間、私にはすぐに状況がわかりました。そのあと私はテノールのパートを歌い続け、最後に鳴り響くラ・アクート(一点イ音)も歌い上げました。そして、超満員の観客からは熱烈な大喝采をいただくこととなったのです。あの夜以上の興奮は今のところ経験していません。



2006年、ミラノ・スカラ座での「リゴレット」タイトルロール

最近の「リゴレット」と、この役の魅力、難しさは？

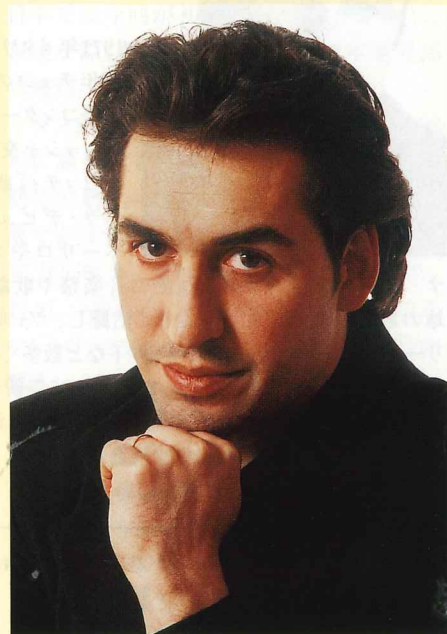
私のロールデビューは1998年のザルツブルクでしたが、常に私は重要な機会にのみ世界的な演出家や指揮者との共演で、この役に臨めるという幸運に恵まれてきました。考え得る限り最良の状況で、この役に円熟味を与えていくことができたと思います。日本の皆様の前で歌った2000年のスカラ座公演以降も、ムーティとシャイーの指揮で歌ったスカラ座での最後の3公演、ザルツブルク、フィレンツェ、メキシコ・シティー、プッセート、ヴェローナ野外劇場、ラヴェンナなどで歌っています。

この役の難しさは既に広く知られていることです。偉大なるアルド・プロッティはいまだにこの役の出演最多記録保持者のはずですが、彼はこう言っています。「あの(背中)のコブがね…」、まるでバリトンがここで課される並はずれた苦勞を直観させるためのようだ…」と。

リゴレットのもっとも人間らしい側面、虐げられた者の弱さ、犠牲者が暗殺者を経てまた犠牲者となる推移…。それらすべてをこじつけの解釈によらずに際立たせたいのです。このような傑作においては、知的に理詰めで仕上げようという誘惑に決して陥ってはならないからです。むしろ、情動がもたらず説得力をもって演じようと思います。舞台で起こっていることすべてが、あたかも真実の出来事であるかのように。

ヴェルディの魅力は？

真のヴェルディ・ヴォイスには、学び取ることはできない天性の特質が備わっていないと考えると、研ぎ澄まされた輝きのある音色、力強さと柔らかさ、



また柔軟で広い音域を持ち、無数の彩と趣旨を表現できる声。ヴェルディをただ大声で歌う歌手を聴くのは耐え難いことですし、もしオーケストラが歌手の声をかき消すようなことがあるならば、その指揮者は降ろすべきでしょう。プッチーニの音楽で直面する難しさなど、ヴェルディの音楽に比べればないに等しいと、確信を持って申し上げます。

日本のオペラ・ファンへのメッセージを

今回で6度目の訪日となりますが、日本のお客様にコメントは不要だと思います。日本のファンは、アーティストにとって理想的です。オペラ公演中もその前後も、花束、贈り物、拍手でと、絶え間なく我々を支えて下さるのです。なにより、会場が満席でなかった公演など記憶にないほどですから。私の方から喝采を送るにふさわしい聴衆なのです！

世界中のテノールに歌われてきたマントヴァ公爵
ロール・デビューの“挑戦”にご期待ください

エマヌエーレ・ダグアンノ(マントヴァ公爵)

「リゴレット」はヴェルディのオペラの中でも最も見事で内省的な作品で、音楽的生彩にあふれ、私の大好きなオペラのひとつです。マントヴァ公爵は身勝手、無礼かつ厚顔な男であることを明示しなければなりません。自分自身のことしか考えず、好奇心に駆られた楽しみのことしか頭にない人物です。私にとってはロール・デビューとなります。世界中のテノールに最も多く歌われてきた役のひとつであり、声楽的な点からも、またその役どころといった観点からも、私にとってはひとつの挑戦となります。初めて訪れる日本の聴衆の素晴らしさは仲間から聞いています。そんな皆様のために歌えることを心待ちにしています。

堀内康雄 (リゴレット)

リリコならではの音楽性で泣かせたい

これまでの「リゴレット」の
体験や思い出は？

最初にリゴレット役を歌ったのは95年夏、ローマ歌劇場の野外公演です。マネージャーに、カバー歌手として派遣させられましたが、新米で右も左もわからなかったもので「はいはい」と引き受けてしまったんですね。しかし、突然代役で本番を2回歌うことになって。冷や汗ものでしたが、いい勉強になりました。それを皮切りに、ヴェネツィア・フェニーチェ座やアテネ国立劇場などに出演しましたが、懐かしいのは、スペインのビルバオ・アリアーガ劇場の公演でしょうか。前年に同地で行われたコンクールの入賞者の出演による公演で、マッダレーナ役の藤村実穂子さんと一緒にしました。スペインでは、ほかにマラガ・セルバンテス劇場で歌っています。

一番最近の「リゴレット」は2002年、サルデーニャ島・カリアリ歌劇場の公演で、カロ・グエルフィのカバーの仕事でした。この時は彼の11歳の娘さんが公演直前に白血病で亡くなるという悲しい出来事がありました。そんな時に、「愛する娘を失う」という役であるリゴレットを歌うのはあまりにもつらいですよ。ゲネプロを含めて稽古のほとんどは、僕がやりましたが、全5回の公演は彼がすべて歌いきりました。

この役の魅力、難しさは？

歌ううちにだんだんこの役の難しさもわかってきました。音楽的な難しさは、ひとことと言えば「音域の広さ」に尽きます。最初の頃の僕は、まだ技術的に克服でき

ていない部分もありました。楽譜どおりに歌うなら、世界中の何千人というバリトンが歌えると思います。ところが、歴代のバリトンが技巧を競ってきた伝統的なバージョンで歌わないと聴衆が納得しない場合が多いのです(指揮者のフリッツァさんも、そうなる事を僕は希望していますが)。そこを突き詰めると音域的にかなり難しい役

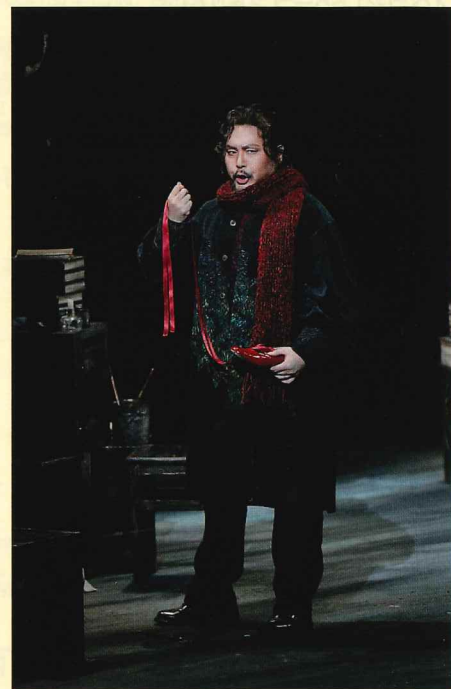
になりますし、歌える人もぐっと減ります。

声の技術的な問題をクリアできたら次は“役作り”です。たちの悪い道化師と、娘を深く愛する父親の両面のコントラストを表現するのはやはり難しいですし、それがこの役の魅力でもあります。この役の第一人者であるレオ・ヌッチは、けっして聴衆を圧倒するような大きな声ではなく、どちらかというと美声ですが、彼のリゴレットには圧倒的な説得力がある。僕もリリコなので、リリコで音楽的にどれだけできるかということをいつも考えています。たとえばラストのジルダとの二重唱でどこまで泣かせられるかが勝負だと思っています。

今回の「リゴレット」への意気込みを

カバーの仕事を含めると、今回の「リゴレット」は5年ぶりですが、この充電期間があつてよかったのではないかと思います。先日ピエロ・カップッチェリのインタビュー録音を聴いたのですが、彼も30歳代の頃リ

ゴレットをががん歌って、3幕が終わると喉の調子が悪くなっていて、ある時から3年半歌わなかったのだそうです。「もしその間も歌っていたら今私はここにはないだろう」と語っていました。あれだけ強靱に歌える人でも「おいておく」時期があるわけです。キャリアのスタートで何度か歌わせてもらったあと、「ラ・トラヴィアータ」や「仮面舞踏会」をはじめ、他のたくさんのヴェルディ作品を歌った経験を経て、あらためて「リゴレット」に立ち戻ってこれたのは幸せです。この5年間で意味のある期間だったと感じられるように、万全の状態に備えたいと思います。



今年1月、藤原歌劇団「ラ・ボエーム」でマルチェッロを好演

パヴァロッティに感動して進んだ歌の道
マントヴァを輝かせることができますように

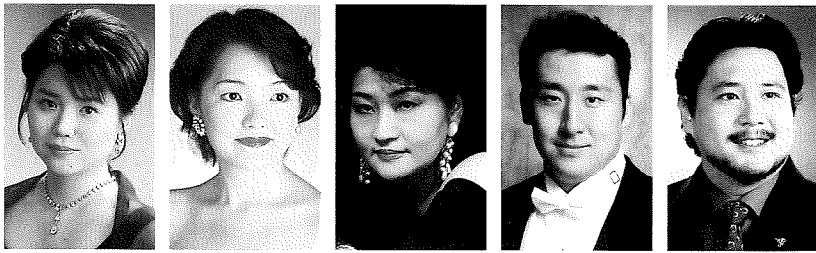
平尾憲嗣 (マントヴァ公爵)

今回はマントヴァを歌わせていただけるというとても素晴らしい機会をいただきまして非常に感謝しております。自分が高校生だった時は音楽高校でトランペットを専攻していて、当時は声楽やオペラというものにまだあまり興味がありませんでした。そんな時授業でイタリアで行われた3大テノールのビデオを見て圧倒的な明るい声で歌っていたパヴァロッティを聴き、こんなに素晴らしいものがあるのかと感動し、そのことが大きなきっかけとなって歌をはじめました。マントヴァの役を輝かせることができるように演じることが目標です。精一杯がんばりますのでどうぞよろしくお願いたします。

今年も年の初めを華やかに飾った NHKニューイヤー・オペラコンサート

1月3日にNHKホールで開催された第50回NHKニューイヤー・オペラコンサートには今年も藤原歌劇団合唱部と以下の方がソリストとして出演しました。

砂川涼子、高橋薫子(初)、森山京子(初)、村上敏明(初)、堀内康雄 [写真左から]



テアトロ・ジリーオ・ショウワで行われた 公開オーディション

さる1月28日、昭和音楽大学のテアトロ・ジリーオ・ショウワにおいて、同大学オペラ研究所主催により、若手歌手の登竜門としても知られる英国グランドボーン音楽祭の理事長と総監督を招いて公開講座が開催されました。併せて行われた劇場体験会では公開オーディションもあり、藤原歌劇団から以下の方が参加しました。

小林厚子(S)、光岡暁恵(S)、鳥木弥生(MS)、所谷直生(T)、党主税(Br)、須藤慎吾(Br)、羽瀨浩樹(Br)

外部オペラ出演情報 (1~11月)

(2007年3月12日現在)

1月14日(日)

「ラ・ボエーム」抜粋

主催：オペラネットワーク仙台

出演：堀内康雄、党主税

会場：仙台

1月26日(土)

オペラ彩「トゥーランドット」

出演：下原千恵子

会場：和光サンアゼリア

2月9日(金)、10日(土)、11日(日)

日本オペレッタ協会公演

「ルクセンブルク伯爵」

出演：田代 誠

会場：北とびあ・つつじホール

2月16日(金)、18日(日)

新国立劇場小劇場シリーズ

「フラ・ディアヴォロ」

出演：永澤三郎、山崎知子

3月15日(木)、18日(日)、21日(水・祝)、24日(土)

新国立劇場公演「運命の力」

出演：妻屋秀和

3月15日(木)、18日(日)、21日(水・祝)、24日(土)

東京のオペラの森「タンホイザー」

出演：平尾憲嗣

会場：東京文化会館 (3/15, 18, 21)

よこすか芸術劇場 (3/24)

3月17日(土)、18日(日)

「カルメン法廷」

主催：ニュー・オペラ・プロダクション

出演：砂川涼子、河野めぐみ、中鉢聡、柴山昌宣

山崎浩美

会場：紀尾井ホール

3月21日(水・祝)、22日(木)

23日(金)、24日(土)、25日(日)

「ミカド」

出演：関 真理子

会場：東京芸術劇場中ホール

3月22日(木)、25日(日)、28日(水)、31日(土)

新国立劇場公演「蝶々夫人」

出演：岡崎他加子

4月2日(月)~5日(木)

MUSICASA

モンテヴェルディ「オルフェオ」

出演：中鉢 聡

会場：ムジカーザ

5月5日(土)、6日(日)

立川市民オペラ公演

「カヴァレリア・ルスティカーナ」

「パリアッチ」

出演：下原千恵子、河野めぐみ、高田恭代

伊藤和広、永澤三郎、角田和弘

牧野正人、松浦 健、鳴海優一

立花敏弘、押川浩士

会場：アミュー立川(立川市民会館)

5月29日(火)

AMARANTO OPERA

「カヴァレリア・ルスティカーナ」

出演：中鉢 聡

会場：市川市民会館(小)

6月 6日(水)、9日(土)、12日(火)

15日(金)、17日(日)、20日(水)

新国立劇場公演「ばらの騎士」

出演：妻屋秀和

6月13日(水)、16日(土)

19日(火)、21日(木)

新国立劇場公演「ファルスタッフ」

出演：妻屋秀和

7月13日(金)~16日(月・祝)

東京室内歌劇場公演「アルチーナ」

出演：出口正子、高橋薫子

会場：シアターアプル

7月15日(日)、18日(水)、21日(土)

ラ・ヴォーチェ公演「ドン・キョット」

出演：藤原歌劇団合唱部、及川真、折江忠道

会場：新国立劇場中劇場

10月18日(木)、20日(土)

23日(火)、27日(土)

新国立劇場公演「フィガロの結婚」

出演：森山京子

10月中旬

「蝶々夫人」上海公演

主催：日本オペラ団体連盟

出演：佐藤ひさら、折江忠道、松浦 健

彭 康亮、仲野玲子

会場：東方芸術センター(上海市)

10月24日(水)、25日(木)

大田区民オペラ公演「ノルマ」

出演：村上敏明

会場：大田区アブリコ

11月11日(日)~15日(木)

日生劇場オペラ公演

「カプレーティ家とモンテッキ家」

出演：砂川涼子、須藤慎吾

11月15日(木)、17日(土)

北とびあ国際音楽祭

オペラ「オルフェオ」

出演：若林 勉

会場：北とびあさくらホール

11月25日(日)

びわ湖ホール・プロデュースオペラ公演

「こびと(王女様の誕生日)」

出演：高橋薫子

リサイタル・マネジメント (5~9月)

中村 靖&金子裕美ジョイント・リサイタル

5月30日(水)みなとみらいホール(小)

(主催：中村 靖・金子裕美)

Quattro Tenori Belcantisti テノールの饗宴

~1962・63年芸大同期生による~

6月3日(日)第一生命ホール

(主催：早瀬一洋、他3名)

柴山昌宣 バリトン・リサイタル

9月8日(土)浜離宮朝日ホール

(主催：アングランド・バーネ)

堀内康雄 バリトン・リサイタル

9月10日(月)紀尾井ホール

9月17日(祝・月)軽井沢大賀ホール

(主催：堀内康雄リサイタル事務局)

募集オーディションのお知らせ

〈藤原歌劇団〉 団員・準団員
〈日本オペラ協会〉 会員・準会員

- 日時：5月12日(土) 午前11時
- 会場：昭和音楽大学北校舎 (旧・昭和音楽芸術学院)
- 募集人員：若干名
- 申込締切：5月1日(火) 17時
- 審査料：団員15,000円／準団員10,000円
- 申込資格：音楽大学卒業後2年以上オペラの研鑽を積んだ者、もしくは同等の実力を有する者
〔正団員は年齢制限なし。準団員はオーディション当日現在でソプラノは33歳まで。メゾ・ソプラノ、アルト、テノール、バリトン、バスは35歳まで。〕
- 課題曲：オペラ・アリア、外国歌曲、日本歌曲
(詳細は下記にお問合せください) *伴奏者は各自同伴のこと
- 募集要項・申込書請求先／お問い合わせ：
財団法人日本オペラ振興会 新百合ヶ丘事務局
TEL 044-953-6411 FAX 044-953-8693

第26回新人演奏会

日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第26期修了生による

2007年6月23日(土) イイノホール

全自由席¥2,500

主催・お問合せ／財団法人日本オペラ振興会 TEL 03-5466-3181

文化庁本物の舞台芸術体験事業

今年は九州で「カルメン」ハイライト

今年度の文化庁本物の舞台芸術体験事業(学校公演)「カルメン」(ハイライト)は9月下旬から10月上旬に宮崎県・鹿児島県で行われる予定です。

(詳細は3月12日現在未定)

受賞・留学情報

平成19年度 文化庁・新進芸術家海外留学制度研修者

[1年間]

山口佳子/ソプラノ 藤原歌劇団団員 (研修予定地:ミラノ)
鳥木弥生/メゾ・ソプラノ 藤原歌劇団団員 (研修予定地:パリ)
平尾憲剛/テノール 藤原歌劇団団員 (研修予定地:ボローニャ)
羽淵裕樹/バリトン 藤原歌劇団団員 (研修予定地:フィレンツェ)
藤原藍子/コレパティウール 藤原歌劇団団員 (研修予定地:ミラノ)

[特別 (3ヶ月)]

小林厚子/ソプラノ 藤原歌劇団団員 (研修予定地:ミラノ)

平成19年度 五島記念文化賞

オペラ新人賞

党主税/バリトン 藤原歌劇団準団員 (研修予定地:ミラノ)

財団法人日本オペラ振興会 鑑賞会員 募集中! JOFアミーチ・デル・テアトロ・リリコ

日本オペラ振興会が主催するすべてのオペラ公演とコンサートが鑑賞でき、しかもさまざまな特典もある大変お得な日本オペラ振興会の年間鑑賞会員(JOFアミーチ会員)の募集を昨秋から再開しています。入会は随時可能で、会員資格の有効期間は1年間です。

入会申込受付：随時(「リゴレット」からご入会が可能です)

年会費：特別会員 1口=10万円 A会員 1口=7万円

【特別会員】日本オペラ振興会が主催する藤原歌劇団および日本オペラ協会のオペラ公演、コンサートにご招待。(1口につき特別席2枚)

【A会員】日本オペラ振興会が主催する藤原歌劇団および日本オペラ協会のオペラ公演、コンサートにご招待。(1口につきA席2枚)

〈会員特典〉①オペラ公演のGP見学

②バックステージ見学

③プログラム券進呈

④所属歌手との交流会(有料)

⑤日本オペラ振興会会報JOFニュースの送付

⑥主催オペラ公演1割引(1公演につき2枚まで)

詳細のお問い合わせ・資料のご請求は下記日本オペラ振興会チケットセンターへ

今後の日本オペラ振興会主催オペラ公演予定

〔藤原歌劇団〕

プッチーニ作曲「蝶々夫人」

オペラ2幕 字幕付き原語上演

伝統美あふれる粟國安彦演出の名舞台

二人の若手タイトルロールでアンコール上演

指揮：菊池彦典 演出：粟國安彦

〔蝶々夫人〕清水知子/小林厚子

〔ピンカートン〕村上敏明/平尾憲剛

〔シャープレス〕三浦克次/柿沼伸美

〔スズキ〕向野由美子/松浦麗 〔コロ〕小宮一浩/市川和彦

〔ボンゾ〕東原貞彦/党主税 〔ヤマドリ〕雨谷善之/清水良一

〔神官〕坂本伸司/秋本健 〔ケイト〕日向由子/増田弓

平成19年11月17日(土)・18日(日)

テアトロ・ジューリオ・ショウワ(新百合ヶ丘)

〔日本オペラ協会〕

水野修孝作曲「美女と野獣」 オペラ2幕

指揮：三石精一 演出：岩田達宗

〔編〕齊田正子/佐藤美枝子 〔野獣〕三浦克次/柴山昌宣

平成20年1月11日(金)・12日(土)・13日(日) 新国立劇場中劇場

〔藤原歌劇団〕

ロッシーニ作曲「どろぼうかささぎ」

オペラ2幕 字幕付き原語上演

ロッシーニ・シリーズ第5弾! ニュー・プロダクション

ロッシーニの最高権威ゼツダ、魅惑のタクト

指揮：アルベルト・ゼツダ 演出：ダヴィデ・リヴァーモア

平成20年3月7日(金)・8日(土)・9日(日) 東京文化会館

日本オペラ振興会チケットセンター

☎03-5466-3181

FAX 03-5466-3186 オペラ公演オンライン予約 <http://www.jof.or.jp>

日本オペラ振興会チケットセンターでのご予約の場合、チケット代のお支払いは従来の銀行振り込み等のほかに、NICOS、VISA、MASTER、JCB、AMEXカード(オンライン予約はNICOS、VISA、MASTERのみ)のご利用が可能です。どうぞご利用ください。



砂川涼子(ミミ)
村上敏明(ロドルフォ)



左から、佐藤美枝子(ムゼッタ)、リウン
キョン(ミミ)、笹田博昭(ロドルフォ)

藤原歌劇団公演

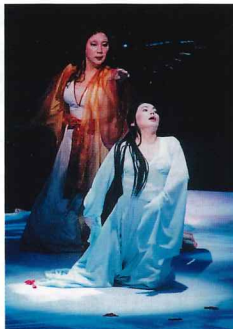
プッチーニ作曲 「ラ・ボエーム」

2007年1月26日・27日・28日
Bunkamuraオーチャードホール
指揮/園田隆一郎 演出/岩田達宗

新年を飾った「ラ・ボエーム」。際立ったレベルを示した充実の歌手陣に加え、日本デビューとなった園田隆一郎の完成度の高い音楽づくりが、天才画家・佐伯祐三の作品をモチーフにした岩田演出とあいまって会場の涙を誘い、大きな喝采を浴びました。



2幕カフェ・モミュスの場面。
砂川涼子(ミミ) 村上敏明(ロドルフォ)
堀内康雄(マルチェッロ) 高橋薫子(ムゼッタ)
三浦克次(ジョナール) 久保田真澄(コッリーネ)



郡愛子(御息所一左) 大貴裕子(葵上)

日本オペラ協会公演

別宮貞雄作曲「葵上」(あおいのうえ)

2006年12月1日・2日・3日
めぐろパーシモンホール
指揮/若杉弘 演出/岩田達宗

照明効果を巧みに用いた幻想的な舞台上で繰り広げられるすさまじい女の情念の物語。初演以来25年ぶりに、改訂版での再演となった別宮貞雄の「葵上」は、わが国オペラ指揮界の第一人者・若杉弘を迎え、この作品の水準の高さをあらためて示しました。

公演のご案内

ジ・インペリアル・オペラ モーツァルト

「フィガロの結婚」(字幕付き原語上演)

藤原歌劇団によるモーツァルトの名作と
帝国ホテルのフランス料理で
しあわせなひとときを

【出演】

須藤慎吾(アルマヴィーヴァ伯爵) 砂川涼子(伯爵夫人)
谷友博(フィガロ) 山田由紀子(スザンナ)
増田 弓(ケルビーノ) 安東玄人(バルトロ)
吉田郁恵(マルチェリーナ) 所谷直生(バジリオ/クルツィオ)
坂本伸司(アントーニオ) 上田恵子(バルバリーナ)
ピアノ:村上尊志 電子チェンバロ:藤原藍子
演出:岩田達宗

4月30日(月・祝)

オペラ16:00開演/ディナー18:30

¥35,000 (インペリアルクラブ会員特別料金¥32,000)

(コース料理・飲み物付き。サービス料込み)

会場:帝国ホテル3階・富士の間

お問い合わせ:帝国ホテル宴会イベント係
TEL 03-3504-1255

第14回神奈川国際芸術フェスティバル

イタリア・オペラの華

名歌手たちのヴェルディ・ガラコンサート

藤原歌劇団の名歌手が贈る、
イタリア・オペラ黄金時代を彩る
ヴェルディの傑作オペラ珠玉のアリア

【出演】

出口正子(S) 森山京子(MS) 永澤三郎(T) 堀内康雄(Br)
須藤慎吾(Br) 彭 康亮(B) 藤原歌劇団合唱部
指揮:菊池彦典 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

【予定曲目】「ナブッコ」より～行け、わが思いよ、金色の翼に乗って 「ルイザ・ミラー」より～穏やかな夜には 「イル・トロヴァトーレ」より～恋はバラ色の翼に乗って/アンヴィル・コーラス/炎は燃えて 「ラ・トラヴィアータ」より～前奏曲/ああ、そはかの人か 「シチリア島の夕べの祈り」より～おお、パレルモ 「運命の力」より～序曲/死、恐ろしいことだ! 「ドン・カルロ」より～ヴェールの歌/共に生き、共に死ぬ 「アイダ」より～凱旋の場 「オテロ」より～イヤゴの信条

6月9日(土)16:00

神奈川県民ホール

A¥6,000 B¥5,000 C¥3,000 学生¥2,000 A席ペア¥10,800

「ヴェルディ・ガラコンサート」&「6/3リゴレット」セット(A席)¥16,200

お問い合わせ:県民ホールチケットセンター TEL 045-662-8866